

教育広報

かけはし

第17号 平成6年11月1日発行
発行 千代田区教育委員会



2,000mに挑む（中学校 3年）

主
な
記
事

☆健康でたくましい幼児の育成
—区立幼稚園がめざすもの—

☆小・中学校 水泳・陸上競技大会
—より速く、より高く、より遠くへ—

☆給食のできるまで

秋晴れの10月7日、国立霞ヶ丘競技場において、小・中学校陸上競技大会が開催されました。

参加した小・中学生は、国際的な選手が走り、跳んだ競技場で、競技できる喜びを感じています。

昨年度から^{ひまわり}孺恋村の中学生の選手も参加しています。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

健康でたくましい

幼児の育成

区立幼稚園がめざすもの

千代田区の公立幼稚園は、開園以来、併設されている小学校と連携を密にして、一貫した教育方針のもと、「教育と文化のまち千代田区」に相応しい教育活動を展開してまいりました。

昨年四月、新たな幼稚園八園として出発いたしました。これまでの伝統を受け継ぎ、さらに、地域の恵まれた環境や人材を生かして、創意ある教育活動を推進しています。

☆全国にさががけた三年保育

社会の急速な進歩にとむが、幼児の身体的・精神的な成長にはめざましいものがあります。しかし、核家族化、少子化によって、集団の中での生活習慣・生活態度を育成する機会が減少しています。本区では昭和二十六年から三歳児保育を始め、昭和五十五年には、これが全部の区立幼稚園に拡大されました。各園では、三年間を見通して、一人ひとりの個性を尊重し、心身ともに健康でたくましい幼児の育成に努めています。

麴町幼稚園

「小学校と一体となった毎日」

幼稚園は小学校の一階にあるため、幼稚園の保育室の前を小学生が絶えず行き来しています。こうして幼稚園児と小学生が毎日自然体でふれあい、声をかけあうことにより、幼稚園に居ながらにして小学生との間に一体感が育まれ、入学後の学校生活へ向けての大切な基礎が培われていきます。

また、幼稚園と小学校の教員が、道徳教育について同じテーマで一緒に研究活動を進めるなど、幼小が連携して教育効果をあげています。



毎月一回の園外保育を実施するほか、園庭でのアスレチックや野菜栽培、近隣にある東郷公園や北の丸公園での野外の活動など、心身ともに健康な幼児を育成するために、青空の下でのびのびと保育活動を行っています。

九段幼稚園

「たくましさと思いやりの育成を」

遊び盛りの幼児たちは、草花や虫を求めてしばしば東郷公園などに出かけ、自然の中でたくましく活動しています。公園でのびのびと遊んだ後は、そこで集めた葉っぱや花を使って、保育室で楽しげにままごと遊びや製作活動が始まります。

毎年秋、五歳児が中心となって進める幼稚園独自の運動会では、保護者にも参加してもらい、親と幼児、園とのきずなを深めるよう努めています。今、本園には外国籍の幼児も在園しています。

言葉は通じなくても、思いやりと心のふれあいによって、すっかり周囲にとけ込んでいます。こうした様々な体験を生かして、豊かな人間性の基礎づくりをめざしています。



☆地域の特性を生かした

創意ある教育活動

地域の社会・自然環境や優れた人材を生かして、各園が創意を發揮し、自然との関わりを深める活動、伝統文化にふれる活動、地域の方々との交流など、独自の教育活動を行っています。

☆全園合同の行事も盛んに

区内の八幼稚園が合同で、演劇等を観賞する合同子供会、幼児の作品を展示する連合作品展などを行い、豊かな心を育てています。

☆スクールバスを利用した

園外保育の充実

各園には毎月一回程度スクールバスが配車されます。これを利用して園外保育を実施し、自然とふれあったり、広場で遊びのびと遊んだり、様々な施設を見学するなど、少しでも多く直接的・具体的体験ができるよう努めています。

☆保護者・地域と

深く連携した教育活動

保育参観や保護者会、地域の方々ともふれあう様々な活動を通して、家庭・地域・幼稚園が相互に理解し合い、協力して幼児の教育にあたるよう努めています。

番町幼稚園

「豊かな心をもつ子どもをめざして」

ビルやマンション住まいの幼児が多い実情から、自然とふれあう体験を重視した教育を行っています。園内では、アヒル・ウサギなどを飼育したり、ナス・エンドウなどを育てたりしています。園外保育でも、お濠の土手や公園など、できるだけ土のある場所に行くようにしています。

また、親と子どもと一緒に体験する機会を積極的に増やしています。例えば、日曜参観や作品展においては、単に子ども様子や作品を見るだけでなく、その場で親子が一緒になって作ったり絵を描いたりする時間を設けています。こうした体験は、園児の成長に大きな効果をあげています。



富士見幼稚園

「幼い時から国際交流の芽を」

富士見幼稚園では、近くにあるリセ・フランコ・ジャポネの幼児と毎月一回交流を行っています。子どもたちは、言葉の壁を意識することなく、日本とフランスのそれぞれの国の遊具と一緒に遊ぶことから交流を深めていきました。クリスマスに招かれ、ひな祭りに招き、お互いの文化や生活の良さを認めあうことで、幼い時から国際感覚を養い、国際理解教育の基礎づくりに努めています。



また、土の広い園庭を活用して思う存分遊ぶことにより、元気で粘り強い子どもも育成をめざしています。それと同時に、虫の観察、ウサギの飼育、植物の世話などを通して、思いやりや優しさの育成などの情操教育にも力を入れています。

お茶の水幼稚園

「地域の自然や人々と一体となって」

緑あふれる錦華公園を活動の場として、子どもたちは毎日自然とふれあいながら、元気に遊んでいます。公園の木立ちの中での「探検ごっこ」、園内で栽培、収穫したサツマイモを使った「やきいも大会」など、楽しい活動がいっぱいです。

公園に憩う地域の皆さんや学生さんたちも、幼稚園の子どもたちに優しく声をかけ、あたたかい眼で見守っています。子どもたちが毎年楽しみにしている「子ども会」や「もちつき大会」などの行事では、地域の皆さんのご協力もいただきながら、一緒に楽しいひとときを過ごしています。



お茶の水幼稚園では、こうした活動を通じ、心身ともに調和がとれ、何事にもチャレンジする子どもの育成をめざしています。

千代田幼稚園

「個性の尊重と郷土愛のめばえを」

千代田幼稚園は、東京都から「男女平等教育推進園」として指定を受け、研究と実践を続けています。男女平等教育を推進することは、幼児一人ひとりを個人として尊重することにほかなりません。そうした中から、幼児自身にも、友達同士互いに尊重する心が育ち、仲良く元気に遊ぶ子どもとして成長しています。

また、地域に根ざした幼稚園として、地域の歴史と伝統を生かした教育を行っています。神田祭りの直後に行う「お祭りごっこ」では、みこしや山車を作ったり、模擬店を出したりして、祭りの楽しさをみんな味わいます。ふるさと千代田を愛し、地域の歴史と伝統を大切に受け継ぎ、地域社会をさらに発展させようとする人間に育ってほしいです。



また、地域に根ざした幼稚園として、地域の歴史と伝統を生かした教育を行っています。神田祭りの直後に行う「お祭りごっこ」では、みこしや山車を作ったり、模擬店を出したりして、祭りの楽しさをみんな味わいます。ふるさと千代田を愛し、地域の歴史と伝統を大切に受け継ぎ、地域社会をさらに発展させようとする人間に育ってほしいです。

幼稚園の思い出

石丸 幸子

入園した年の秋、幼・小合同の運動会で、息子が校庭の真ん中で母親の私にしがみついてしまい、とうとう最後まで演技できずに退場した姿が昨日のことのようになつかしく思い出されます。

そんな我が子はもちろん、どの子に対しても幼稚園の先生方は常に優しく笑顔で接していました。決して他人と比較することなく、その子なりの成長の度合いを大切にしてくださいました。そして、毎日の遊びを通して、単に知識や技能をさずけるだけでなく、子どもにも思いやりの気持ちや、やる気を育ててくださいました。十数年前に長女が入園して以来、四人の子どもがお世話になりましたが、そうした愛情あふれる教育ぶりは、時代が変わっても少しも変わりませんでした。

その年のPTA活動は、記念行事もあつたため、例年になく大変なものでした。少人数で、しかも経験のない私たちにとつて、何をすればよいのか全く想像もつかず、非常に不安でした。しかし、保護者全員が知恵を出しあい、個性を発揮しつつ、一丸となつて努力を重ね、無事に乗り切ることができました。子どもたちの成長を見ながら、幼稚園、保護者そして地域の三者が一体となつて歩んだ幼稚園の三年間、子どもにとつても、親にとつても思い出深い日々となりました。

(卒園児 保護者)

昌平幼稚園

「地域の子どもは、地域の大人が守り育てる」

心身ともに健康で、個性豊かな人間の育成をめざし、三、四、五歳の発達段階に応じた指導と、年齢の異なる友達との交流の調和を図りながら、日々の教育活動を行っています。

運動会、草花・野菜づくり、収穫祭り、音楽会、作品展など、親子で一緒に活動する機会を多く設け、家庭と幼稚園とが力を合わせて子どもへの教育にあたっています。



また、この地域では、「地域の子どもは、地域の大人がしっかりと守り育てていく」という伝統が受け継がれています。現在、公適配構想における複合施設の第一号として、外神田三丁目に新しい園舎を建設中で、平成八年夏には完成の予定です。

和泉幼稚園

「幼稚園・保育園が連携した長時間保育の実施」

園舎のあるパークサイドプラザには、いずみ保育園が併設されています。そこで、幼稚園、保育園が深く連携し、保育園は零歳から二歳まで、幼稚園は三歳から五歳までの保育を行っています。

幼稚園では、教育要領に基づく「一般課程」のほかに、和泉橋出張所管内に住居を有し、長時間保育を必要とする幼児を対象にして、長時間保育を実施しています。



本園では、主体的に遊ぶ「元気な子、やさしい子、考える子」の育成をめざし、新しい施設の良さを生かすとともに、近隣の公園やスクールバスなどを活用し、直接体験を重視して教育活動を進めています。

平成七年度 園児募集要綱

一、応募資格

千代田区に住所を有し、

次の年齢要件に該当する幼児

- 三歳児 平成三年四月二日～平成四年四月一日生
- 四歳児 平成二年四月二日～平成三年四月一日生
- 五歳児 平成元年四月二日～平成二年四月一日生

二、通園区域

小学校の通学区域に準じます。

三、入園申込受付

各幼稚園で、次の期間に行います。

- 平成六年十一月一日～十一月十五日
- (土、日、祝日を除く)
- 午後一時～三時

四、選考方法

申込受付後、健康診断と簡単な面接を行い、区内通園区域に住居している事実を確認したうえで決定します。ただし、募集人員を超える場合には抽選により決定します。

五、通園条件

通園には、幼児の安全確保のため、保護者による送迎が必要となります。



小・中学校 水泳・陸上競技大会

より速く、より高く、より遠くへ

この秋、アジア大会が広島で開催され、熱戦が展開されましたが、区立小・中学校でも、水泳と陸上の大会が開催されました。練習の成果を晴れの舞台で発揮した充実感と、互いに讃え合う姿が印象的でした。

大会の経験をこれからの学校生活に生かすとともに、互いに競いあつた他校の人々との友情も大切にして、いつてほしいと願っています。

〈水泳大会〉

小学校は九月七日と九日、和泉小学校(五年生)と総合体育館(六年生)を会場として、水泳記録会が開催されました。

中学校は九月六日、一橋中学校を会場として水泳大会が行われ、二十七種目のうち三種目で大会新記録が生まれました。

〈陸上競技大会〉

国立霞ヶ丘競技場のメインスタンドには中学校五校の全生徒、バックスタンドには小学校八校の五・六年生全員が席を占めました。保護者も多数見学を訪れ、選手・応援団とも快い汗を流した一日でした。

競技には、小学生は全員が参加しました。中学校は、選抜された生徒が競技を行い、七種目で大会新記録が生まれました。



水泳大会(中学校) 大会新記録 3種目

1年男子	50m背泳	白子 真太郎(九段中)	33秒67
1年男子	200mリレー	白子・本間・望月・石井(九段中)	2分01秒21
3年男子	100m平泳	内田 正信(九段中)	1分15秒26

小・中学校陸上競技大会 大会新記録 7種目

1年女子	800m走	岩井 玄(麴町中)	2分43秒56
2年男子	200m走	佐々木 範佳(練成中)	24秒45
2年男子	走り幅跳び	北澤 久委(九段中)	5m99cm
2年女子	80mハードル	白山 靖子(練成中)	13秒72
2年女子	800m走	大出 麻衣子(練成中)	2分38秒46
3年男子	走り幅跳び	藤田 太郎(九段中)	6m33cm
3年女子	800m走	大島 基子子(一橋中)	2分45秒76



給食のできるまで

区立小学校では、全校で完全給食を実施しています。

「給食のできるまで」については、普段、目にするのが少ないと思います。そこで、一日の様子を番町小学校で追ってみました。



まずは下ごしらえから
最初に、大量の米をこぎ、干シイタケを水戻しする作業から始めます。そして、食器類を並べる作業と並行しながら、ニンジン、玉ネギなどの野菜を刻みます。



こうしているうちにも、肉やキャベツなどが続々と納品されてきます。

今日の献立は、麻婆丼・中華サラダ・牛乳・バナナで、合計六八二キロカロリーとなっています。



いよいよ調理の始まり

中華サラダを和え、麻婆豆腐の調理も始まります。給食調理員の間では、その日の役割分担がきちんと決められています。その上で、少しでも手が空けば、他の分担を手伝います。また、互いに何かを頼んだ後は、必ず「ありがとう」の声をかけるのが印象的です。こうした協力態勢の中で、短時間に七百三十食が作られていきます。



▲バナナは1本1本ていねいに手で洗います



仕上げは目と舌で

米を炊き始めます。火加減は、手作業で行います。全員で味見をして、できあがった料理をクラス毎に分け、配膳台に載せ終わつたのが十一時三十分です。それから、リフトで各階に運び、盛りつけ見本をセットして、午前中の作業が終了します。



▲洗い物は全員が協力して



後片づけが延々と

食べ終わった食器類を載せた配膳台が戻ってきます。大量の洗いを手ぎわよくこなし、清掃が完了するのが約二時間後。それから翌日の調理の打ち合わせをして、給食室の長い一日が終わります。



▲二飯の上に麻婆豆腐を

給食調理の仕事でつらいのは、夏の暑さと冬の寒さだそうです。真夏に揚げ物をすれば、現場の温度は五十度近くまで上がり、油酔い状態になることもあります。また、真冬でも野菜は水で洗わなければならないんですが、その水の冷たいことといったら、筆舌に尽くし難いほどです。そんな時に励みになるのは、子どもたちの「ごちそうさまでした」のひと言です。

「勵走」とは、あれこれ走りまわつて世話をすることから、客へのもてなしを意味するようになり、転じて立派な料理、おいしい食物を「ごちそう」というようになったものです。

私たちが口にしているものは、農家の人や漁師などの生産者や、商店の人、調理をする人など、数多くの人の労働の結晶であり、日常、何気なく使っている「ごちそうさま」には、感謝の気持ちが込められているのです。勤労感謝の日を前にして、こんなことを考えてみるのも、意義深いのではないのでしょうか。

☆ 子どもとのかかわり合い
 学校週五日制にともなう休業土曜日が月二回に拡大される日も近い。区内の小・中学校においても、新しい体制を整えつつある。それは、子どもの活性化と自立性・協力を促すスタートでもある。

「千代田区で一番有名な所は？」
 「秋葉原！」

元気のよい四年生の答えに、私は戸惑った。皇居や国会議事堂を予想していたからである。しかし、予備知識がない以上、内外人が毎日たくさん集まるあの繁華街を連想するのも無理はない。

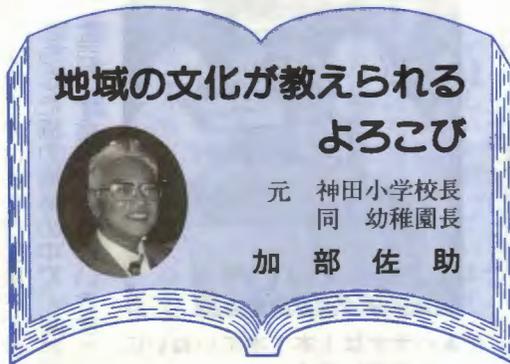
子どもたちは現在に生きている。まだ未来や過去への知識は十分ではない。そこで、大人がひと言ふた言教えてやると、「あつ、そうか。」とわずくのである。

適切な機会をとらえて学校や地域家庭の方々が、子どもの身になって考えてやる遊びや運動、学習は、子どもにとって実に新鮮なのである。大人がどう子どもとかわり合うかが、貴重な土曜日をどう過ごさせるかという鍵になりそうである。

☆ やる気を持たせる

子どもたちは、学校や塾で与えられる課題をやらされることに慣れている。「えっ、秋葉原って、昔はアキバが原って言ったんだって。」

図書館や歴史民俗資料館へ行ってみると、川のほとりに秋葉神社やその周りに火除地があったという思い



地域の文化が教えられる
 よろこび

校長 小園 佐助
 副校長 神田 加部
 元 加

がけない情報が得られる。

遊びや運動も同じである。どうやったらもっとうまくできるかと自分で考えたり、それを会得したりすることによって、喜びは倍加する。

ボールは爪先ばかりで蹴っていたのじゃだめなんだ。そう助言されたら、自分で気づいたりすると、生き

た知識になってくる。子どもは、与えられた知識より、自分に生きる知識を求めている。しかも、そうした意欲は、大人のリードによって可能になり、学校教育も、その方向で改善されつつある。

☆ 教えることの楽しさを

神田川と日本橋川の間や周辺は、川と共に発達した町である。魚河岸、青物市場、材木河岸など舟運の便によって開けたのである。番町や九段、麴町にもいくつかの坂があり、その名にも色々ないわれがある。「番町の〇〇坂のそば」というと、聞いている方でもすぐ分かったものである。

千代田区には、そうした生きて教えられる地域が至る処にある。また、それを調べるのも楽しい仕事である。古地図の邸名が縦横ばらばらになっているのも、名字の頭が門に当り、長い塀を回らずに済ます昔の人の知恵である。そうした知恵や知識を知るのも悪くはないが、それを子どもに生かしてやるところに、文化が教えられる楽しさがあるので、なかろうか。

かべさすけ
 埼玉大学講師

編集後記

紅葉前線が急速に南下し、菊の香も薫る美しい季節となりました。

各校（園）では、子どもたちがそれぞれの個性を発揮し、主体的に学習を進めたり、文化的・体育的な活動に参加したりしています。また、幼児は、美しい自然の事物を生かした活動を創り出し、楽しく遊んでいます。

学校週五日制の月二回実施が、国会でも論議され、目前に迫った感じがします。時間的なゆとりが心のゆとりを生み出すよう、家族全員で考え、行動するようにしたいものです。十一月一日から、区立幼稚園の入園受付が始まりました。本号の特集で、各園がどんなねらいをもち、どのような配慮をしているかについてご理解いただくと幸いです。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。

教育広報「かけはし」第十七号
 平成6年11月1日発行

編集発行/千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11

☎(03)264-0151 内3114